

## 「事務手続き体験記」

当センターに入社して、もうじき丸5年になります。私はそれまで経理事務を専門としていたもので、労務や法務といった仕事は本当にド素人でした。頼れる人もいないので、とにかくやるしかない！という感じでした。今ときはインターネットで調べると大概のことは解る便利な世の中ですが、それでも解らないことは関係各所に問い合わせをし、必要書類を整える→提出する→間違いを指摘される→やり直すを繰り返し、現在に至っております。その中でも普段は経験できない法務手続きについて紹介したいと思います。

当センターは昨年7月の通常総会にて理事長の交代があり、同年10月には事務所移転をしました。その各種手続きをしなければならなかったのですが、どこに何を提出すればよいのか…？

まず、理事長交代時ですが、法務局へ「特定非営利活動法人変更登記申請書」「印鑑(改印)届書」を総会終了後2週間以内に提出します。変更登記が完了したら、福島県へ「事業報告書等提出」「役員変更等届出書」とともに「代表者変更届」を提出します。当センターは認定NPOですので「認定特定非営利活動法人役員報酬規程等提出書」や「第54条第2項第3号書類」とともに「認定特定非営利活動法人代表者変更届」も提出します。そ

の他、県北地方振興局へ「法人登記事項等異動届」、市へ「法人等の異動届出書」、社会保険事務所へ「健康保険・厚生年金保険 事業所関係変更(訂正)届」、税務署へ「異動届出書(認定特定非営利活動法人用)」を提出します。それぞれ添付書類があるので不備がないよう気を付けます。

次に事務所移転時ですが、法務局へ「特定非営利活動法人主たる事務所移転登記申請書」の提出です。ただし、定款の変更を伴う事務所移転でしたので「定款変更」手続きもしました。具体的には臨時総会の開催、定款変更には総会承認が必要だからです。福島県へ「定款変更届出書」を提出し、変更登記が完了したら「定款変更登記事項証明書提出書」を提出します。それから、労働基準監督署へ「名称、所在地等変更届」を提出します。その他は上記と同様です。

登記なんて…と敬遠しがちですが、法務局へ相談してみると親切に教えてもらえるし、なんとかなるものです。企業に勤めていたら司法書士や行政書士へお願いするような手続きが「自分でもできちゃった」よい経験となりました。

(ふくしまNPOネットワークセンター事務局  
チーフ 根本 靖子)

### —福島県より受託、運営している施設—

#### ●ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F  
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741  
URL <http://www.f-npo.jp/saposen/>  
E-mail [saposen@f-npo.jp](mailto:saposen@f-npo.jp)

### —福島市の指定管理制度で運営している施設—

#### ●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち3F  
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560  
URL <http://www.f-ssc.jp>  
E-mail [f-ssc@bz01.plala.or.jp](mailto:f-ssc@bz01.plala.or.jp)

### —福島市より受託、運営している施設—

#### ●まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F  
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027  
URL <http://www.machi-fukushima.jp>  
E-mail [info@machi-fukushima.jp](mailto:info@machi-fukushima.jp)

### 編集後記

◆今回から、斎藤常務理事にとりまとめて  
頂いた原稿を頂戴し、私の会社で編集と  
校正を行なうことになりました。総会前でも  
あり通常の2倍の紙面となり、内容の濃  
い通信となりました。ありがとうございました。

(常務理事 菅野)

#### ●編集・発行

認定特定非営利活動法人  
ふくしま NPO ネットワークセンター  
〒960-8068  
福島市太田町 12-30 マルベリービル 6 階  
TEL 024-572-7930 FAX 024-572-7931  
E-mail [center@f-npo.jp](mailto:center@f-npo.jp) URL <http://www.f-npo.jp/>



認定 NPO 法人 ふくしまNPOネットワークセンター通信 No.62

# のっぽの手

## ◆◆◆◆ 注 目 記 事 ◆◆◆◆

◆NPOのミッションとビジョンをめぐって  
◆ふくしま元気活動助成団体より  
◆「記念誌」発行！！～編集に寄せて～

2016年 7 月発行

## ～NPOのミッションとビジョンをめぐって～

非営利すなわち利益を第一義に追求しないNPOにとって、ミッションこそアイデンティティの中核をなすものであり、NPOの存在意義はミッションの追及にあるといえます。わがネットワークセンターの公式のミッションは、定款第1条に「目的」として、こう謳われています。

「この法人は、主に福島県内で活動する、民間非営利活動団体及び市民団体を支援し、これらの活動の基盤整備を進め、地域や分野を越えたネットワークの拠点となるとともに、まちづくりの推進活動については積極的にこれと取り組み、行政や地域と連携した新たな協働関係を築きながら、もって市民社会の発展に寄与することを目的とする」。

立派です。文句のつけようありません。けれども、表現はいかにも固く冷たく、愛想のカケラもない。いちど読んだだけでは、すーっと頭に入ってこない。腑に落ちない。それが正直な感想かもしれません。

NPOのスタッフが同じ方向へ向かって進んでいくためには、ミッションの共有がぜひとも必要です。ならば、ネットワークセンターがめざすべき社会の理想状態をビジョンとして掲げ、そのためになすべきことをミッションと位置づけ、誰の目にもわかりやすく共感できるコトバで表現しよう—それが私たち三役

の参加した研修(NPOマネジメントスクール)で課せられた最初の課題でした。

ところが、これが難題。特定のテーマと具体的な事業をもたない中間支援組織の宿命を嘆きながら、さんざん悩み、ようやくひねり出したのが、前にも紹介した『「社会を変える計画」ステートメント』だったというわけです。いまいちど要点を述べるならば、「NPOが自律的に運営できている社会の実現をビジョンとし、そのためのミッションとして、助成金事業、研究会、研修・講座の開催、マネジメント相談、コーディネーター派遣などの事業を行う」ということになるでしょう。

うーんいまいち、いやいやまだまだ、といまつぶやいたそのあなた、一歩前へ。『創立15周年記念誌』もようやく発刊の運びとなり、ネットワークセンターはもう一段のステップアップをすべき時期にきています。有志による「ネットワークセンター戦略会議」(仮称)もまもなくメンバーの募集が始まります。ネットワークセンターのつぎの10年、15年は、ビジョンとミッションを共感できるコトバにすることから始まるのかもしれませんが。多くの人の参加を期待しています。

(ふくしまNPOネットワークセンター  
理事長 牧田 実)





# 平成27年度 ふくしま元気市民活動助成金 ～助成を受けられた団体紹介～

## 【福島犬猫のいのちをつなぐバトンの会 改め 福島犬猫ゆいまーの会】

私の団体は、2012年7月に設立し活動地を福島市を中心に、「犬猫の保護活動」、「リハビリを新しい飼い主に譲渡する」とこと「遺棄は犯罪」「適正飼育」をモットーにした啓発活動の2つの課題に取り組む動物福祉活動をしています。

2011年、3月11日の大震災後に被災者と居場所をなくした犬猫が数多く出ました。福島県内の保護所に収容された犬猫を保護することが多く、その頭数は私の団体で5年間で70頭に及んでいます。また、かわいそうな命を増やさないようにと不妊去勢手術をした猫は年間100頭程になります。

現在私の所には、全盲の犬、おびえた犬など様々な状態の犬猫20頭近くがリハビリをしながら新しい飼い主を待っています。一時預かりや散歩ボランティアさん達に支えられ活動しております。

福島犬猫のいのちをつなぐバトンの会  
代表 高橋 美佐子

## 「福島の子どもたちを守る保養プロジェクト」

わたしたち「福島の子どもたちを守る保養プロジェクト」は、福島の子どもたちを放射能から守るため福島市に2014年10月設立、翌2015年2月にはNPO法人登録しました。この度、「ふくしま元気市民活動助成金」を受け、2月7日に福島市市民活動サポートセンターにおいて「福島ーこころつなぐ広場」を開催しました。「小さき声のカノン」の上映や鎌仲監督のトーク、各団体のマルシェ、活動展示や相談コーナーを置き、約150名の来場者となることができました。

今後は福島市郷野目に4月オープンする共同事務所「菜たねの家」において、様々な選択をする福島の人々が集う場所になるよう活動を続けていきたいと思っています。

NPO 法人福島の子どもたちを守る保養プロジェクト  
代表 辺見 妙子

## 【子どもたちの環境の放射能を測る事業】

東日本大震災により起きた福島原発の事故による放射能の拡散で、私たちの地域は広く汚染されました。私たちの町は、原発から30km～50kmぐらいのところに位置する福島県いわき市です。地域の母親が中心になって立ち上げた測定室「たらちね」には、今も子どもの環境を心配する声が集まります。特に子どもが多く時間を費やす学校の敷地内がどうなっているのか知りたいというママたちの声が多くありました。

「たらちね」では、いわき市教育委員会と相談し、学校の敷地内の空気の汚染度をダストサンプラーでの測定を実施しました。そして3年前から「たらちね」と連携し学校敷地内の空間線量と土壌の汚染を測る活動を続けている「ママベク」とも協力し、空間線量・土壌汚染・空気中のダストの測定値を合わせることも実施しました。

| 放射線測定 レポート ③                                                                           |         |             |
|----------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------------|
| 子どもの環境測定中（高野小の結果）                                                                      |         |             |
| たらちねは、市教委の許可の下、ママベク（株）と協働で市内の小中学校、幼稚園、保育園の環境測定を行っています。                                 |         |             |
| 土壌のほか、ダストサンプラーを用いて塵埃（じんあい）を捕集し、空気中の放射性セシウムも測定。高野小学校につきましては現在、市に除染に向けての対応をいただいているところです。 |         |             |
| （注）TEAM ママベク子どもの環境守り隊                                                                  |         |             |
| 検査場所（市立高野小）                                                                            | 測定年月    | 測定結果（Bq/kg） |
| 校庭中央の土壌                                                                                | 2016年3月 | 37          |
| 体育館右、トイレ裏の土壌（土と木の根道沿）                                                                  | 2016年3月 | 131,402     |
| 校庭、空気のダスト                                                                              | 2016年2月 | 不検出         |



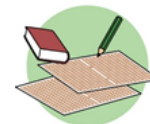
原発事故から5年が経ちましたが、まだまだ汚染は深刻です。

子どもたちは、遊びの中で大人が想定しないような場所に行ったり、細かい動きをします。そういう実態も配慮に入れ、子どもたちの被曝を防ぐため、これからも地域で協力しながら活動していきたいと思っています。

NPO 法人いわき放射能市民測定室  
代表 織田 好孝



## 『記念誌』発行 ～編集に寄せて～



2000年8月に福島県から認証を得て、特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンターが設立され、昨年8月で15周年を迎えました。この度、15周年を記念し、これまでの歩みをまとめた「創立15周年記念誌」を発行する運びとなりました。

これまでも、“記念”とよべる年はありませんでしたが、特に記念誌的なものは発行されておりました。これまでの歩みをまとめることで、ネットワークセンターの“これまで”と“これから”を形にできると思い、今回の発行に至りました。

編集にあたっては、それぞれの事業所からメンバーを選出して頂き、“プロジェクトチーム”を編成し、編集にあたりました。企画・構成、ページ割り付け、原稿依頼など、メンバーで力を合わせ、スムーズに準備が進みました。また、過去の資料なども整理し、これまでを振り返りこれからを考えるよい機会であったと思います。

また、今回の記念誌の一番の企画として、歴代理事長座談会を開催し、掲載いたしました。4人の歴代理事長より、ネットワークセンター設立に至る

経緯や、創始の想い、震災後の現在の活動、そして、未来への期待と、貴重な話をうかがうことが出来ました。私たちの知らない創設時の話や、苦労ばなし、また、感動や喜びなど、それぞれの歴代理事長が、これまで見たことのないいきいきとした表情で話す姿は、自信に満ち溢れており、見ているこちらには感動を覚えました。これから続いていくネットワークセンターの活動に、先輩たちの“熱き想い”を是非とも受け継いで頂きたいと思います。私自身も、この記念誌の発行刊に携われたことを大変幸せに感じております。

今回、発行に関しまして、15周年直後を予定しておりましたが、事務局の移転や、新規委託事業の受注などと重なりまして、発刊時期が遅れましたことに関しまして、深くお詫び申し上げます。

最後になりますが、発行に際しまして、ご寄稿を頂きました皆様に厚く感謝申し上げますとともに、ご協力頂きましたすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（ふくしまNPOネットワークセンター  
副理事長 作田 謙太郎）



## ～東北6県のNPO法人数の動き～

長い間研究者の端くれでもあったせいか、一種の職業病にとりつかれてしまっているのかもしれない。統計数値を眺めていると、つい、気になって計算してみたくなる。今回も、平成28年4月末の東北6県のNPO法人の認証数を眺めていた。認証数の大きさの順位でいえば、福島県(878)、宮城県(808)、岩手県(482)、山形県(434)、青森県(398)そして秋田県(342)となる。一方、解散数を見てみると、宮城県(162)、福島県(102)、岩手県(98)、青森県(96)、山形県(63)そして秋田県(60)の順になっている。

興味深い点は、認証数が大きい県と、解散数の大きい県とが、いずれも被災3県であることである。ここから推察されることは、被災3県では災害の

ダメージが大きく、解散に追い込まれた団体が多いこと、その半面で、ダメージに抗して新たに立ち上がったNPO法人が多いことを示唆しているのではなからうか。被災3県におけるNPO法人の世代交代が進んでいるともいえよう。

さらに正確を期すならば、各県の人口規模との相対的な関係も視野に入れておく必要がある。東北6県の人口1万人当りNPO法人数を計算してみると、宮城県(6.1)、福島県(4.6)、山形県(3.9)、岩手県(3.8)、秋田県(3.3)そして青森県(2.8)の順となっている。皆さんの実感と比べていかがでしょう？

（ふくしまNPOネットワークセンター  
理事 星野 珉二）



# ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局 事業報告

ふくしま NPO ネットワークセンターは本年度より福島県の「平成28年度ふるさとふくしま交流・相談支援事業」のうち以下の2つの補助事業に関する事務局を受託運営しています。

## (1)「県外避難者支援事業」

県外避難者の生活の安定や福島県への帰還・生活再建につながる県外の避難者支援団体による相談・見守り・交流の場の提供などの活動を支援する事業

## (2)「県内避難者・帰還者支援事業」

県内避難者や県外からの帰還者が主体的に参加し、人と人とのつながりや生きがいを持てるような避難者支援団体等による活動を支援する事業



事務局で業務に取り組むようす

## ～活動内容について～

現在は主に、補助対象事業の募集・採択に関する事務業務を行っています。

補助対象事業の第一次募集は3月25日から4月15日まで行われ、80団体の申請の中から「県外避難者支援事業」の54事業、「県内避難者・帰還者支援事業」の10事業が採択され(別表 1)、すでに事業を実施しています。また6月15日から7月1日まで第二次募集が行われ、事務局では7月下旬の審査会に向けて申請書の不備確認や再提出書類の請求を経て、審査資料を作成し交付決定後にはその通知も行います。

夏以降は、事業を開始した全国の採択団体(約90団体)を訪問し、事業の執行状況や実績報告

書作成に向けた領収書・出納帳等の確認を行うほか、可能な限り現地の避難者と接点を持ち、今後の支援活動に関する課題やニーズの聞き取り調査を実施します。また、インターネットを活用して各採択団体の支援活動の状況などを発信します。さらに、年度末には「補助事業活動実施報告書」として冊子にまとめます。



訪問にはデジカメ・ICレコーダーを活用！

本事務局の運営にあたっては、各支援事業の円滑な活動をとおして、福島県避難者のサポートの充実に努めてまいります。

## ◆福島県避難者支援課ウェブサイト

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16055b/>

| 県外避難者支援事業 第一次採択 54 団体     |   |         |   |      |   |
|---------------------------|---|---------|---|------|---|
| 青 森                       | 1 | 神奈川     | 3 | 広 島  | 1 |
| 秋 田                       | 3 | 新 潟     | 2 | 香 川  | 1 |
| 山 形                       | 6 | 静 岡     | 3 | 愛 媛  | 1 |
| 茨 城                       | 5 | 愛 知     | 1 | 福 岡  | 1 |
| 栃 木                       | 3 | 滋 賀     | 1 | 佐 賀  | 1 |
| 群 馬                       | 1 | 京 都     | 3 | 宮 崎  | 1 |
| 埼 玉                       | 3 | 大 阪     | 1 | 沖 縄  | 1 |
| 千 葉                       | 4 | 兵 庫     | 1 |      |   |
| 東 京                       | 4 | 岡 山     | 2 |      |   |
| 県内避難者・帰還者支援事業 第一次採択 10 団体 |   |         |   |      |   |
| 福島市                       | 5 | 相馬市     | 2 | 南相馬市 | 1 |
| いわき市                      | 1 | 新潟県小千谷市 |   |      | 1 |

別表1 第一次募集採択団体所在地

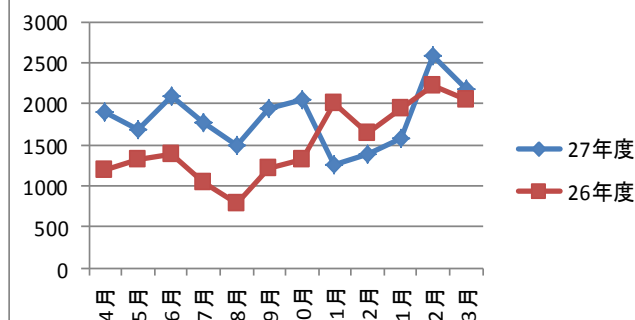
(ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局

チーフ 後藤 一光)

# 「福島市市民活動サポートセンター 事業報告」

平成17年にラヴィバレー番丁でスタートした福島市市民活動サポートセンターは、今年で11年目を迎えます。ふくサポの愛称で皆さんに愛していただき、開所当初、年間2,437人だった来館者も昨年度は約10倍の21,880人となりました。

## 来館者数(人)



平成22年5月に現在のチェンバおおまちに移転したことにより、館内スペースも広がり、開所当初より行っている印刷機、製本機、紙折り機等の使用サービスに加え、会議室の貸し出しも行っています。

平成26年度より指定管理制度が導入されたことにより、企業など、市民活動団体以外の皆さんの利用も可能となり、より多くの方にご利用いただく機会が増えました。

利用者の声に耳を傾け、ロビーに自動販売機を設置するなど、皆さんがさらに気持ちよくご利用いた

だけよう、今後もサービス向上を心掛けていきたいと考えております。今年度はそのための、スタッフのスキルアップ研修にも力をいれております。

また、私ども「ふくサポ」には、貸館業務以外にもNPO・市民活動団体の活動サポートを行うという重要な業務があります。

地域の活動団体の取材によるニーズ調査を積極的に行うことを心掛け、現場を知る！「現場力」をアップさせていきたいと思います。

現場力を意識した、情報発信・情報収集、ニーズを視野にいたった講座の企画運営を目指せるふくサポでありたいです。

講座の企画に関しては、これまで、NPO・市民活動の知識や実践に特化した内容を中心に行ってきました。しかし、昨年度よりNPO・市民活動団体の活動の広報につながる講座を意識し、活動団体と連携した講座の開催で、一般市民が参加しやすい「まちづくりークカフェ」などを行うなど、新たな挑戦で約400名の方にご参加いただきました。

今年度、新たに顧問とスタッフが加わり、新しい目線を加え、チャレンジしながら、活用しやすい身近なふくサポでありたい。と、新たな取り組みにスタッフ一同頑張っております。

(福島市市民活動サポートセンター

チーフ 内山 愛美)





# ふくしま地域活動団体サポートセンター 事業報告

ふくしま地域活動団体サポートセンターは、福島県が実施する平成 28 年度 NPO 強化を通じた若者定着・地域活性化事業「NPO 強化マネジメントサポート事業」及び「チャレンジインターンシップ事業」を、福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課から委託を受け、福島県内の NPO 法人や市民活動団体をサポートいたします。

## 今年度の事業内容 ※6 月末時点の実績

- ①「NPO なんでも相談日」の開催と窓口設置  
随時受付を行っています。
- ②ホームページの運営 <http://f-saposen.jp/>  
ホームページを有効活用し、多様な主体との協働推進をつなぐ場づくりを行い、NPO 活動団体の見える化や助成金情報も掲載し、活動を支援します。
- ③ニュースレターの発行(年3回)  
今年度 vol.1 7月末発行予定
- ④NPO 法人実践力養成講座  
(マネジメント講座、人材育成講座 全6回)
- ⑤NPO 法人等基礎的養成講座

### 県内各地の開催予定の講座

| 講座(タイトル)                    | 開催時期・場所           |
|-----------------------------|-------------------|
| マネジメント講座                    | 10月～12月(全6回)      |
| 人材育成講座                      | 開催予定(全6回)         |
| NPO 役員・事務局長講座               | 9月28日(水) 喜多方市厚生会館 |
| SNS 講座「フェイスブックを学ぼう！」(初～中級編) | 10月3日(月) 会津美里町公民館 |
| NPO 法基礎講座                   | 10月または11月 須賀川市    |
| 会計基準講座                      | 開催予定              |
| 税務・財務講座                     | 開催予定              |
| ファンドレイジング講座                 | 開催予定              |

- ⑥アンケート調査から選定した事業実施の企業聞き取り調査  
昨年度のアンケートから、県内7地区10事例以上の聞き取り調査を行い、事例集をまとめます。
- ⑦情報交換会の開催(全4回)  
※第1回開催 出席者38名  
内容：各事業報告、福島県 NPO 法人のつどい等について

- ネットワーク形成として、県内の市町に設置されている中間支援センターの情報交換の場を持ち、ネットワーク提供による情報提供と NPO 活動支援のノウハウを共有し、協働を推進します。
- ⑧中間支援センターニーズ調査； 県内8ヶ所



- 【中間支援センターニーズ調査のようす(須賀川市)】
- ⑨チャレンジインターンシップ事業  
受入れ団体 選定20団体

福島県で活動している NPO で1週間から10日程度のインターン活動を行い、東日本大震災で被災した福島県の復興に貢献することを応援します。またインターン活動を通して参加した若者自身が学び、人間的に成長する機会となることも目的としています。



- 【チャレンジインターンシップ 団体説明会】  
(ふくしま地域活動団体サポートセンター  
チーフ 野地 理恵子)

# まちの駅ふくしま情報ステーション活動報告

・まちの駅ふくしま情報ステーションは、福島市から観光案内所として委託を受け、福島市観光コンベンション推進室、福島商工会議所等の関係機関の指導と支援を得て観光と地域情報の案内業務を行っています。



## まちの駅情報ステーション

「いで湯とくだもの里ふくしま」「花もみもある福島市」のキャッチフレーズの福島を観光パンフレットで案内しています。地域情報は、人気の円盤餃子ややきとり、ラーメン、そばなど福島うまいもの店を手づくりマップで、わらじまつり、秋まつり等の市民参加型のイベントをチラシで案内しています。また、情報ステーションに寄せられている情報をFMポコで提供し案内しています。



## 市民フェスティバルで案内

- ・現在、実施中のアフターDC福島県観光キャンペーンの特別企画をパンフレットと手づくり概要版で案内しており、多くのお客さんが訪れています。
- ・市内14まちの駅のネットワークである「まちの駅ネットワークふくしま」の事務局に情報ステーションが担当し、隔月に駅長会議を開催、まちの駅の事業報告と情報の共有を図って、相互理解と交流を深めています。
- また、ホームページの作成や各種イベントへ参加して、観光案内とまちの駅のPRを行っています。

現在、手続き中ですが、4事業所がまちの駅の仲間入りすることとなりました。市内のまちの駅は19駅となり、まちの駅ネットワークふくしまの活性化に弾みがつくものと思います。

まちの駅は、既存の個人店舗や事務所の空間を利用して、まちゆく人々が気軽に立ち寄れる場、人と人をつなぐ場ですが、まちの駅を知る人が少ないことから、まちの駅の認知度を高めるため、今年度、福島市市民活動活性化支援事業補助金を活用して、まちの駅案内マップを作成することとしました。



## まちの駅ネットワークふくしま総会

マップを通して、多くの人にまちの駅を知ってもらうと共にまちの駅と地域の活性化に繋げていきたいと思っています。

- ・これからのまちの駅は、地域の人たちと協働で、防犯、防災、救援物資の供給の機能を持った防災拠点の場としても役割が重要となってきますので、まちの駅の機能充実が課題であります。
- ・引き続き、人との出会いを大切にし、また来てみたいと思えるようなまちの駅ふくしま情報ステーションづくりに努めて参りますので、関係者の皆様方の一層のご指導とご支援をお願いいたします。



## スカイパークアグリで案内

(ふくしま情報ステーション

所長 川浪 廣次)